

無痛分娩について

I. 無痛分娩とは

無痛分娩とは麻酔を使って陣痛の痛みを緩和し分娩する方法です。代表的な麻酔は硬膜外麻酔です。

II. 無痛分娩のメリットとデメリット

1. メリット

- ・ 分娩時の痛みが軽減される
- ・ 痛みのストレスから解放される
- ・ リラックスして分娩に臨むことができる
- ・ 分娩時のストレスを軽減することで体力が温存でき産後の回復も早くなる
- ・ 緊急帝王切開となった時、速やかに手術に移行できる

2. デメリット

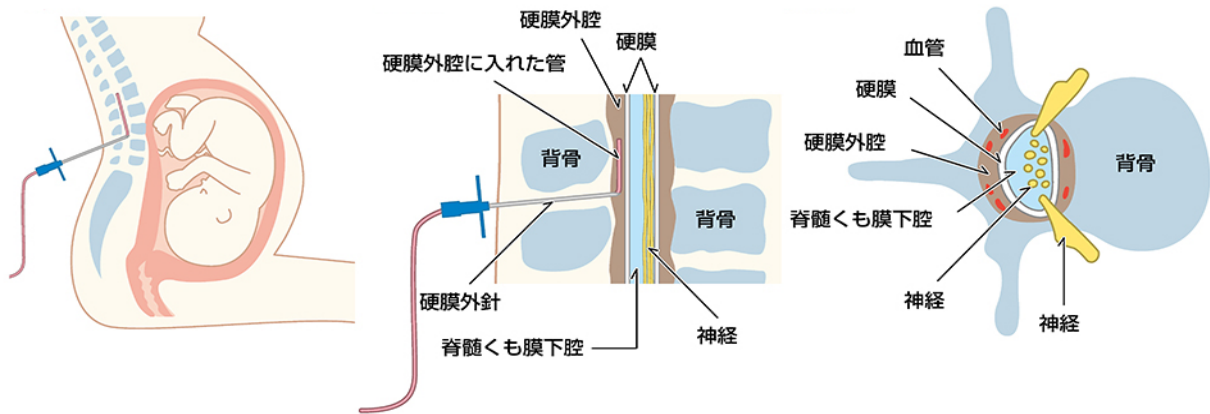
- ・ 分娩第2期が遷延する
- ・ 吸引・鉗子分娩となる率がやや高くなる

III. 当院の無痛分娩

当院の無痛分娩は、麻酔科医師のサポートのもと産婦人科チームで対応いたします。また安全に分娩していただくために、妊婦健診で子宮口の準備ができていることを確認したうえで、陣痛促進剤を使用する計画分娩となります。計画分娩の予定より早く陣痛が起こったり破水した場合は無痛分娩を行うことができないことがあります。

1. 硬膜外麻酔

脊椎の中の硬膜外腔というスペースに硬膜外カテーテルという細い管を挿入し、そこから麻酔薬を注入する方法です。麻酔の効果を确认后、PCAポンプという装置を用いて、麻酔薬を調整しながらお産を進めます。



比較的多い副作用・合併症	まれな副作用・合併症
血圧低下 発熱	頭痛
尿が出にくくなる	アナフィラキシーショック
脱力感 下肢のしびれ	カテーテル挿入による硬膜外血種・感染・神経損傷
皮膚のかゆみ	局所麻酔薬の血管内誤注入による痙攣
胎児一過性徐脈	局所麻酔薬のくも膜下誤注入による広範囲な麻酔の侵襲

2. スケジュール(一般例)

1日目		2日目・3日目	
9:00	入院 血液検査 ノンストレステスト	6:30	血液検査
11:30頃	手術室にて硬膜外カテーテル留置 病棟へ移動 ノンストレステスト 子宮頸管拡張器挿入処置 必要時子宮頸管拡張器入れ替え	8:30頃	(子宮頸管拡張器抜去) 陣痛誘発開始 痛みに応じて硬膜外麻酔開始 分娩終了後硬膜外麻酔終了 硬膜外カテーテル抜去

※初日に分娩に至らない場合は硬膜外カテーテルを抜去せず、翌日に陣痛誘発を再開します。

3. 注意点

- ・ 硬膜外カテーテルの挿入は麻酔科医師が実施するため、上記時間で実施します。何らかの理由でカテーテルを抜いてしまったときは再挿入できない場合もあります。
- ・ 原則、陣痛誘発剤の使用は最長2日間とし、分娩に至らなければ計画無痛分娩を終了します。
- ・ 硬膜外麻酔を安全に実施するため、夜間の対応ができないことがあります。
- ・ 硬膜外カテーテルの挿入は手術室で行います。ご家族の方が手術室へ入ることはできません。
- ・ 入院時、子宮頸管の熟化が不良で誘発分娩の実施が難しいと判断した時は実施日を変更する場合があります。
- ・ 無痛分娩中母児の安全を優先する為、陣痛誘発剤の使用を中止したり、緊急帝王切開を行う場合があります。

4. 硬膜外麻酔実施中の過ごし方

- ・ 硬膜外麻酔中は禁食ですが、飲水は可能です。
- ・ 痛みの感じ方や子宮口の開き方をみながら、麻酔使用・増量のタイミングを決めていきます。
- ・ 定期的に血圧測定・麻酔範囲のチェック・内診を行います。
- ・ 分娩までベッド上で過ごしていただくため、2～3時間ごとに導尿を行います。

IV 料金

<p>ご入院</p> <p>入院料:15,000円/日</p> <p>※別途室料が分娩日までかかります</p>	+	<p>分娩</p> <p>無痛料:10万円</p> <p>※麻酔料・処置料・管理料含みます</p>	+	<p>分娩日以降入院料 (個室利用5日間入院)</p> <p>入院料:約50万円</p> <p>※5日間分の金額です</p>
--	---	--	---	---

ご注意

- ① なんらかの理由で分娩に至らなかった場合でも無痛処置を行った際は一律10万円の無痛料がかかります。ただし一度退院し日を改めて実施する場合の無痛処置料は無料とさせていただきます。
- ② 無痛処置を行った後に緊急帝王切開となった場合は10万円の無痛料がかかります。
- ③ 経過・症状により上記以外に費用が掛かる場合があります。